

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／原田 昌博

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

現在採択されている科研(若手研究B)の継続受給を申請する。

なお、2007年度から2012年度まで2つのテーマで計6年間にわたり科研費を受給している。2012年度はこれまでの研究の継続性を踏まえて、可能であれば新規の科研を申請する。具体的には2007年度から2009年度までが「ワイマル期ドイツにおける右翼労働組合運動の展開に関する実証的研究」、2010年度から2012年度までが「ワイマル期ベルリンにおける街頭闘争の展開に関する実証的研究」であるが、新規の科研申請ではこのうち前者のテーマを発展させる内容を検討したいと考えている。

#### 2. 点検・評価

今年度が最終年度に当たる若手研究B「ワイマル期ベルリンにおける街頭闘争の展開に関する実証的研究」を申請し、受給した。また、新規で基盤研究C(一般)「ワイマル期ベルリンにおける政治的暴力と「酒場」」を2013年度から3年間の計画で申請し、さらに新規で共同科研である基盤研究C(一般)「時代の転換期における人や物の集め方に関する研究」の申請にも参加した。

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

ここ数年所属するコースの大学院入試受験者は堅調な数字を残している。この傾向を維持するため、自らのゼミ所属学生に対して大学院進学への動機づけを図るとともに、大学院入試説明会でのコース別の催しに出席して説明会参加者に対して丁寧な説明を行い、本学大学院を受験するように勧める。さらに、学会・研究会等で、可能であれば、他の大学の教員に対して本学大学院についての情報提供を行うことで受験者の増加に努める。

#### 2. 点検・評価

大学院入試説明会に出席するとともに、ゼミの学生に対しても大学院の動機づけを図っている。卒業年度の学部ゼミ生2名のうち、1名が本学大学院への進学を決め、受験した。また、学会においても他の大学の教員に本学大学院についての情報提供を行った。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①進路や日常生活の悩みなどについて学生からの相談があった場合、随時積極的に対応し、適切な助言を行う。
- ②情報提供や日常の対話などを通じて、指導学生の就職指導を行い、特に教員採用試験の受験または大学院への進学に対する動機づけをはかる。

#### 2. 点検・評価

- ①授業・ゼミ・会議以外は研究室を開放して、ゼミ所属学生や講義受講者などの質問・相談に随時積極的に対応した。なお、ゼミでは学部学生4名、大学院生5名、留学生1名を指導した。
- ②教員採用試験を受験するゼミ所属学生には大学が行う諸行事・説明会への出席を促し、卒業・修了年次の指導学生のうち、1名が本学大学院に進学し、その他の全員が希望する地域・校種の教員採用試験を受験した。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金の申請(継続)を行う。
- ②従来からの研究テーマ(ワイマル共和国期ドイツにおけるナチズムの労働者政策)の研究を継続するとともに、現在の科研テーマ(ワイマル共和国期ベルリンにおける街頭闘争の展開に関する実証的研究)に関して夏期休暇中に渡独して追加的・補完的な史料収集を行い、その分析を進める。
- ③これまで収集した史料と併せて分析・検討を加えていき、論文あるいは学会発表を通じてその研究成果を公表する。

#### 2. 点検・評価

- ①科学研究費補助金の申請を行った(継続・若手研究B)。加えて、2013年度から3年間の予定で新規の科研(基盤研究C(一般))を申請した。
- ②従来からの研究テーマ(ワイマル共和国期ドイツにおけるナチスの労働者政策)の研究を継続するとともに、9月には新しいテーマ(ワイマル共和国期ドイツにおける右翼労働運動の展開)に関してドイツの公文書館・図書館での史料調査・収集を実施し、分析を進めた。
- ③昨年度までに収集した史料を用いて、ドイツ語の共著をドイツで出版したほか、A論文1本、紀要論文1本を公表した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

①学内での委員としての職責を果たし、本学の運営に貢献する。

### 2. 点検・評価

学部入試委員会および学生支援委員会の委員として委員会に出席し、部およびコースと委員会のパイプ役を果たした。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①授業参観や附属学校教員との意見交換などを通じて附属学校での実習指導を支援する(附属学校)。
- ②鳴門史学会での活動を通じて地域社会との人的・学術的な交流を推進するとともに、自治体の公開講座を担当することで市民に向けて情報発信を行う(社会連携)。
- ③留学生を積極的に受け入れる(国際交流)。

### 2. 点検・評価

- ①海外出張のため9月中に行なわれた指導学生の教育実習授業参観ができなかったが、11月での副免実習では附属学校に出向き、授業を参観し、指導を行うとともに、附属学校教員と意見交換を行った。(附属学校)
- ②鳴門史学会の活動として大会(10月)および年4回の例会を企画運営した。特に、研究大会に関しては「古代阿波国吉野川下流域の交通路と阿波国府」をテーマに古代の阿波地域の様子を考える講演会を企画・実施し、多くの一般市民が来場した。さらに、大学・地域連携講座の一環として松茂町図書館で「森外の見たドイツ」と題した市民向け講座を行った。(社会連携)
- ③大韓民国からの留学生1名に対して、研究指導及び生活上のサポートを行った(国際交流)。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特に以下の3点で貢献した。

- ①授業の充実(方法・教材など)を積極的にはかり、学生の外国史への理解を可能な限り容易・具体的にするように努め、結果として授業アンケートなどで学生の高い評価を獲得することができた。
- ②科学研究費補助金(継続)を獲得し、本学の外部資金獲得に貢献した。
- ③ドイツで未公刊史料の収集を行い、新たに発見した史料を用いて日本語及びドイツ語の論文を公表した。